

東北電力株式会社 取締役社長 樋口康二郎殿

提出団体名

女川原発の再稼働を許さない！みやぎアクション（宮城県仙台市）代表鈴木宏一
みやぎ脱原発・風の会（宮城県仙台市）事務局長 舘脇章宏
放射能から子どもを守る岩手県南・宮城県北の会（岩手県一関市）代表者菅原佐喜雄
岩手有機農業研究会（岩手県花巻市）代表幹事 入江敦
豊かな三陸の海を守る会（岩手県宮古市）事務局長 菅野和夫
三陸の海を放射能から守る岩手の会（岩手県盛岡市）世話人永田文夫

女川原子力発電所天井クレーン事故、再稼働等に関する質問要請書

今年1月1日、能登半島で大きな地震が発生し志賀原発の変圧器の絶縁油が大量に漏れ海洋まで流出、外部電源切り替え、敷地内の舗装のき裂段差等被害が報じられております。幸い本原発は停止中であり、運転中と異なり原子炉内の発熱や放射エネルギーは比較的少ないことで幾らか安堵しております。しかし地震と津波による家屋倒壊で多くの犠牲者が出ており、道路がき裂や土砂により寸断され孤立集落が出現し半島大地震の激甚被害に愕然としております。

貴社女川原子力発電所（以下女川原発）は地震の影響の受けやすさにおいて世界一と米国原子力学会で報告がありました。現に2011年東日本大地震では津波や地震により女川原発は被災し国際原子力事象評価尺度INESレベル2「異常事象」と原子力規制委員会が評価しており、私たち市民団体は女川原発の重大事故の発生を非常に憂慮しております。

貴社では、営業運転から28年経過した地震被災原発である2号機を今年5月以降数ヶ月以内を運転開始目標に再稼働させようとしております。私達は一昨年秋貴社へ訪れ質問した際、1号機天井クレーンの支持台座のき裂が震度5強程度の地震により発生したとする評価を聞き、耐震設計がいとも簡単に破綻したことを知り、耐震に関する貴社のガバナンスや防災・危機管理への不安不信を未だ払拭できません。

貴社は「東北電力グループ行動指針」に則り「地域社会との共栄」のため、特に2号機の再稼働については、徹底した情報公開を元に説明責任を果たすようにしてください、また宮城県をはじめ岩手県や周辺県の多くの人々を避難民にするようなことは絶対しないとの決意のもと以下の質問にお答えください。

※尚、回答は2月中旬までに文書でお願いします。その後、ご都合の良い日に回答に係る意見交換の場を設定して頂きたくお願い申し上げます。

- 問い合わせ（回答宛先） ○ 女川原発の再稼働を許さない！みやぎアクション 篠原弘典
〒981-8007 宮城県仙台市 TEL&FAX 022-373-7000
non239@jcom.home.ne.jp
○ 三陸の海を放射能から守る岩手の会 永田文夫
〒020-0004岩手県盛岡市 TEL&FAX019-661-1002
hgf01360@nifty.com

I. 天井クレーンに係る質問

貴社の報告「女川原発1号機の状況（2023年10月分）」で、1号機原子炉建屋天井クレーンに関わり、走行部支持台座のき裂について、2023年10月26日に作業終了との報告がありました。詳細は添付-2資料（以下「詳細報告」）で報告されており、その所見に「き裂が確認された支持台座を新品に交換した上で、2023年10月26日に天井クレーンの作動試験を実施し、運転状態に問題がないことを確認いたしました。」と記載されていました。この件等に関わり以下質問します。

質問①（使用済燃料の取出し）天井クレーンが使用できるようになったとのことであり、1号機の屋上プールの使用済燃料（821体）を早急に取り出し乾式貯蔵、もしくは地上のプールで保管するなどし、重大事故時のリスクを低減させることを求めます。2号機（263体）、3号機（706体）の使用済燃料も同様に早急に地上へ取り出し事故時のリスク低減を求めます。

質問②（台座新品交換）詳細報告の下部の「女川1号機 原子炉建屋天井クレーン走行部支持台座のき裂に係る概要図」にある写真（交換前、交換後）を見ると、交換後は交換前き裂部分が溶接されたように膨らんでおり、交換前のき裂が入っていない新品とは異なり溶接された写真のように見えます。支持台座は「所見」にある「新品」に本当に交換されたのですか、なぜき裂部に当たる箇所が盛り上がっているのか疑問に教えてください。

質問③（台座の耐震）1号機天井クレーン支持台座は前と同じものと交換されたとのことですが、それでは2022年3月16日程度の地震（震度5強）が再度女川原発に襲来した場合、同じようにき裂が入るのではないのですか。なぜ耐震に配慮せず、交換したのか教えてください。

質問④（2,3号機検査は）2号機,3号機天井クレーン支持台座に1号機同様にヒビが入った可能性があります。X線検査などによる鋼材の詳細検査は行われているのですか、検査の内容と結果を公開してください。「原子力規制検査」が行われ確認され国へ報告されているのならば、報告書を公開してください。

質問⑤（1000ガルに耐えるの）2号機、3号機のクレーン支持台座の耐震は何ガルですか。2号機の基準地震動は1000ガルとされていますが、これは原発建屋の地下開放基板表面の地震動です。この場合天井クレーンがある2号機屋上階の最大加速度の推定値はいくらですか。その数値にクレーンの支持台座が耐えるのですか。1,2,3号機天井クレーンの固有周期をお知らせください。

質問⑥（き裂あっても大丈夫）昨年11月24日行われた第166回女川原発環境保全監視協議会において、長谷川委員が天井クレーンの支持台座耐震性能についての質問に、貴社A氏から「・・・き裂があった部分というのはこのクレーン走行部そのものではなくて、このカバーの部分でございますので、これがクレーンそのものを支えているものではございませんので、ここにひびがあったとしても、クレーン自体の健全性には影響がないというものでございます。」との答えがありました。この答えについて、支持台座はカバー部でありクレーンそのものを支えていないとは本当ですか。またここにひび（き裂ではないか）があったとしてもクレーン自体の健全性に影響はないと言えるのですか、き裂が広がり裂けた場合も影響がないのでしょうか説明してください。また支持台座の耐震について答えられていませんが定められていないのですか。

質問⑦（報告は迅速に）2022年5月に実施された定期点検で、安全上重要な設備である1号機原子炉建屋天井クレーンの走行部支持台座のき裂発生が確認されていたに関わらず、9月12日「女川原子力発電所の状況について（2022年8月分）」まで4ヶ月間も公開しなかったのはなぜですか。今後もこのような迅速性に欠ける報告で済みますでしょうか。

II. 原発再稼働に係る質問

貴社は本年5月以降数ヶ月以内を予定に2号機を再稼働させようとしています、このことについて質問します。

質問①（環境影響評価）東海第二原発の事業者日本原電は重大事故が原発で発生した場合の環境への放射能による影響の評価をしております。貴社も女川原発2号機でもし重大事故が発生した場合について周辺への影響評価

(シミュレーション) をする予定はありませんか。

質問② (剛性低下) 女川原発は営業運転以来、1号機は39年、2号機は28年、3号機は22年経過しております。この間、2011年東日本大地震に遭遇し、2号機の原子炉建屋の壁に1130箇所ひびが入り、屋上階には734箇所が集中し、屋上階の建屋の剛性は7割も低下していると貴社が公表しております。(剛性が7割低下したとすると、剛性が設計時のその3割になったことであり、同じ力を受けると設計時の3.3倍ほどの大きな変形が生じることになります。) 剛性が7割低下したとの判断した根拠となる計測値等をお知らせください。剛性が7割も低下したとすると、当然、構造強度あるいは構造の健全性も大きく低下していると考えられますが、如何でしょうか？

質問③ (構造強度や健全性の低下) 屋上階の建屋以外にも、原子炉本体や建屋全体が建設時よりもその剛性が低下していると考えられますが、そのため、原子炉本体や建屋全体もその構造強度あるいは構造健全性が低下しています。構造強度あるいは構造健全性の低下に対しどのような対応をなされましたか？ 中心的な対応として耐震補強を行っていると思いますが、その概要をお知らせください。更に、耐震補強等の対応の結果、剛性や構造強度あるいは最終耐力がどの程度改善されたか、各構造物ごとに数値で教えてください。

質問④ (安重施設の耐震補強) 2号機の基準地震動 S_s は1000ガルとのこと、この地震に耐えるよう、安全上重要な施設設備(原子炉圧力バウンダリ、原子炉本体、非常用炉心冷却系等)の耐震補強は具体的にいつどのように行われたのですか。その検査はどのように行われたのですか。耐震は保証されているのですか。2号機 S_s 1000ガルのときの応答スペクトル図をお知らせください。また安全上重要な施設設備(原子炉圧力バウンダリ、原子炉本体、非常用炉心冷却系等)の固有周期をお知らせください。

質問⑤ (特重施設完成後に稼働を) 特定重大事故等対処施設は2026年12月22日までの完成を目指しているとのことですが、重大事故防止、そして人々の安全を最優先するとき、この施設が完成してから再稼働するべきではないでしょうか。

III 能登半島大地震を受け、原発再稼働の見直し等に係る質問

本年1月1日マグニチュード7.6最大震度7の能登半島大地震が発生しました。志賀原発では大量の絶縁油が流出し、敷地近辺直下を震源とする地震が頻繁に継続発生し、敷地にき裂が入り段差ができるなどしています。しかし未だ行方不明者多数、地震が継続中であり被害の全容が明らかになっておりません(1月8日現在)。珠洲原発計画が中止されていたことは不幸中の幸いであり、女川原発に目を転じるときこのまま再稼働で良いのかの思いが増すばかりです。以上を踏まえ以下質問いたします。

質問① (廃棄物処分は) 未だに高レベル廃棄物(ガラス固化体、使用済燃料乾式貯蔵物)の処分場が決定されないまま、原発を再稼働し処分できない高レベル廃棄物を発生させ未来世代へ長半減期の廃棄物を残すことは、貴社行動原則4「環境への配慮：企業グループの事業活動が持続可能な社会の形成に深く関わっているとの認識に立ち、地球温暖化問題や環境保全等に積極的に取り組みます。」に逆行することになるのではないのでしょうか。

質問② (最稼働の見直しを) 東北電力グループ行動指針の冒頭に「私たちは、「地域社会との共栄」の経営理念と「より、そう、ちから。」のグループスローガンのもと、お客さまと地域によりそいながら、エネルギーを中心としたサービスの提供等を通じてスマート社会の実現に取り組むことで、社会の持続的発展とともに成長します。」とあります。福島原発事故後13年未だ放射能汚染が継続しております。今回の能登半島大地震の悲惨な状況を見、宮城県民の声をすますとき、原発は「地域社会との共栄」は難しいむしろ、地域社会は原発の脅威を痛感していることに気づかれませんか。能登半島大地震を受け再度県民の声を確認し行動指針冒頭にある「公益事業を担う強い使命感」と「お客さまと地域によりそう」観点に立ち再稼働をすることの可否について素朴かつ真剣に見直しをしてはどうでしょうか。以上です。